



日本地球惑星科学連合 (JpGU) 2020 年大会

H-CG29 原子力災害被災地の地域復興における科学者の役割 (Role of scientists in rehabilitation of nuclear disaster areas)

開催報告

西村 拓¹・登尾浩助²・溝口 勝¹

Taku NISHIMURA¹, Kosuke NOBORIO² and Masaru MIZOGUCHI¹

東日本大震災から9年が経過し、一部の地域を除いて避難地域に住民が帰還し、被害の記憶も風化しつつある一方で、被災地域を復興させるためのイノベーションコースト構想等の施策が進められている。復興を考える中で、汚染水の処理や被災地の生業の復活など未だ解決の目途が見えない課題が多く残っている。農業再開の為に、根圏といったミクロからマクロな森林・流域スケールまで、マルチスケールの物質循環や、人口が減ってしまった地域の再生プラン等、純粋な自然科学・社会科学の領域において研究すべき課題がいくつも残されている。事故後9年経って残るこれらの課題を念頭に日本地球惑星科学連合-米国地球物理学連合 (JpGU-AGU) 連合大会 2020 の地球人間圏科学複合領域・一般でセッションを企画した。このセッションでは、土壌物理学会から共催をうけ、国際的な教育研究の連携を意識してゲストスピーカーを海外から招聘し、地域復興を目標に進める研究、教育、そしてそれらの成果の社会実装の方向性について議論した。

COVID-19 のため、当初5月下旬に開催予定であった大会が延期され、JpGU-AGU Joint Meeting 2020: Virtual としてオンライン形式で7月12日(日)から5日間開催された。本セッションは、7月14日(火)午前45分間のディスカッションセッションとiPosterセッションで開催した(http://www.jpгу.org/meeting_j2020v/)。iPosterは、動画やチャットによる作者と来訪者の意見交換が可能ということが売りであったが、中々おちついて、意見交換することができないことに加えて、チャットのソフトキーボードの使い勝手も今一つであった。

西村、溝口が座長になりディスカッションセッション

ンを進行した。Colin Campbell氏 (Meter Group, USA) の Iitate Revitalization: Industry and Research partner to provide real solutions for the future という話題提供で、昨年のカンヌ広告祭でノミネートされた飯館村を取り上げた著作 (Made in Fukushima, 2019. 6) やショートムービーの紹介があった。このミニレクチャーの後、当初の口頭発表、ポスター発表の枠を外して、本セッション発表者全員に研究紹介 (3分以内) をお願いした。発表は、復興知に関する学術研究の概観、飯館村への大学支援や Project Based Learning といった包括的な取り組み3件と、土砂流出シミュレーション、土砂流出や有機物とCsの動態など放射性Csの再分布に関する発表が7件あった。

iPoster, ディスカッションセッションで話題提供のあったテーマは、以下のとおりである。

1. 飯館村農業復興への大学支援 登尾浩助 (明治大学)
2. 福島県飯館村における Field & Project Based Learning の事例研究 杉野弘明 (東京大学)
3. 飯館村とその復興知に関する学術研究の概観 溝口勝 (東京大学)
4. 放射性セシウムは水田に埋設された汚染土壌から漏出しない 溝口勝 (東京大学)
5. 除染後斜面における放射性セシウムの経時的・空間的輸送 砂川優樹 (明治大学)
6. 福島県飯館村における GeoWEPP を用いた放射性セシウム流出分布の解析 藤原成悟 (筑波大学)
7. 山木屋地区における溪流から河川への土砂流出とセシウム動態に対する観測データを用いた除染の影響 牧野文明 (筑波大学)
8. 気候変動下におけるクロボク土の侵食評価 牧野宗太郎 (東京大学)
9. 福島県の森林由来の溶存有機物に対する放射性セシウムの吸着 辰野宇大 (東京大学)

¹Graduate School of Agricultural and Life Sciences, The University of Tokyo, 1-1-1 Yayoi, Bunkyo-ku, Tokyo 113-8657, Japan. Corresponding author: 西村 拓, 東京大学大学院農学生命科学研究科。

²School of Agriculture, Meiji University, 1-1-1 Higashimita, Tama-ku, Kawasaki, Kanagawa 214-8571, Japan.

10. 福島第一原発事故後の未除染水路法面からの溶存態 ^{137}Cs の流出に関する研究 田嶋 智 (東京大学)

JpGU (日本地球惑星科学連合) 大会は, AGU (米国地球物理学連合) や EGU (ヨーロッパ地球物理学連合) との連携もあり, これらの学会と本格的に連携した国際セッションが推奨されている。また, 例年初日の日曜日に開催される高校生の研究発表においては, 土壌物理学

会会員諸氏が関心を持つような土の話も少なくない。参加費は, 教員・研究者にとっては少々重いと感じられるかもしれないが, 学生の参加費は抑えられている。特に学部生は参加費が無料である。学部生, 大学院生には気軽に国際会議を体験し, さらに, 関連分野の研究動向を見聞する良い機会と思われるので, 是非, 参加を勧めてほしい。